

E: 「結局そうなっちゃったから。」  
T: 「じゃあ、改めてその人と付き合っただれくらいの間でまた、その関係になっちゃったの？」  
E: 「またやったの？うーんわかんないよね。」  
F: 「うーんわかんないよね、いちいち覚えていないよね、やりたい時にやるから・・・。」  
T: 「わかった、わかった。じゃあFは？Fは今まで何人の人と色々付き合ってきたの？みんなに恋愛体験聞いているんだけど。」  
F: 「今6人目、初体験は中3。」  
T: 「はじめて付き合ったのはいつ、何年生の時？」  
F: 「中1というか、中1になる前の春休み。」  
T: 「初体験の人は何人目の人なの？」  
F: 「だから6人目、今の彼氏。」  
T: 「ああ、そうなの。そういう意味ではすごく時間かけてるね。」  
E: 「でもこの人ね、別れるの早いな。」  
F: 「うーん、早いっていえば2週間とかね。」  
T: 「Fはしっかりしているから見極めが早いんだね。じゃあCは？」  
C: 「はじめて付き合ったのは小学校の時。」（“そうだお前小学校の時だ” “そんなに俺は早くないよ” “すげえな” の声）  
T: 「ちょっとまって！その“つきあう”イメージは？」  
C: 「かわいいなー、つきあいたいなーかな。だから、付き合っているということではないかも。」  
T: 「Cのイメージとしては6年生の時、可愛いなー、付き合いたいなと思ったのね、なるほどね。そうすると男女交際なぜ付き合うんだにつながるよね。Cになんで付き合うんだと聞いたとき “一緒にいたいから” っていうたよね。そういうふうに意識して付き合ったのは何年生の時？」  
C: 「はい？」  
B: 「ちゃんと聞いてるふりして何も聞いてねえなお前。」  
A: 「なまら聞いてたべや。」  
F: 「話し聞いてるふりして違うこと考えてるべ。」  
T: 「本当にいいなと思って付き合いたいなと考えて付き合ったのがはじめての男女交際としたら、Cにとってはいつ？」  
C: 「それって俺から告ったのを言うの？」  
T: 「うーん、どっちでもいいと思うけど。」

C: 「僕が好きなんじゃないの？」  
T: 「そうだね、いいこというね、自分からね、Dの場合は？」  
D: 「向こうから。」  
C: 「やっぱりいいなとか、付き合いたいなと思っても、自分から相手に言うことが好きなことだと思うから・・・、そういうことだったら中3じゃないかな。」  
T: 「なるほど、じゃあ中3のときにはじめて自分から告って付き合っただけの人は何人目？」  
C: 「10人目。」  
F: 「あれ？中1、中2と彼女いなかったっけ？」  
C: 「いないっしょ。」  
F: 「聞いたことあるよ。」  
C: 「いねえよ。」  
T: 「おもしろいな、それでCが初めて初体験したのは中2になるわけね。中3の前だから、Cに女の子の方から告ってその子と関係を持ったわけね。それぞれ皆さん、初めての体験をした人と時間たってるよね、後悔は無い？」（みんな一緒に“ない”）  
T: 「Cの場合、初めて好きになった人じゃなく、いわれて付き合った人とセックスの関係になっているけどそれもいい思い出になっているんだね。」  
C: 「むずかしいね、わかんない。」  
T: 「本当に性の問題って難しいよね。あとでFね、Cにわかるように言ってやって。」  
T: 「それじゃ最初の“男女交際イコールセックスになっている”というところに戻るけど、アンケート調査をしたら、そういう結果になっていたんだよね。男女交際をしている人の7割がセックスをしているよという結果になっていて、妊娠とか、性感染症とか大事な若い体だから心配だねと話をしているんだけど、そういうことは無いの？」  
F: 「え？妊娠？」  
T: 「そんな心配は無いの？」（一同 “うーん、もう1回” “難しい！”）  
T: 「もう1回説明するよ。男女交際イコールセックスになっている傾向があるのか無いのかでいえば、ないのかな？さきほどのDの話によれば・・・」  
D: 「ないんじゃない？」（周囲 難しくよくわかんない??????）  
T: 「それじゃあ、これは後に回しますか？じゃあ、次のところで、男女交際では妊娠問題というのがぶ

らさがってくるんだけど、これについて悩んだことはないですか？」

C：「あります。」

T：「じゃあその体験談を、どう悩んで、どう乗り越えていったか、あと・・・」

F：「悩んでたあ？」

C：「悩んだよ。」

T：「じゃあ、Cから。その具体的なところを・・・。相手の女の子は月経がこないということで、Cに相談した？」

C：「相談したね。」

T：「その時Cはどう答えたの？」

C：「わかんない。」

A：「あれよ。」

D：「最低！」

F：「やり逃げだべや。」

T：「それで結論としては？」

C：「結果としては（月経が）きたね。何回もあるよ、」

T：「何回もある？ということはCは避妊はしないのかい！君は？」

C：「避妊していません。」（一同 爆笑）

T：「ちょっと待って。その避妊の問題を、じゃあ話しよう、先に！」

A：「（生理が）遅れたの？俺もある、そんなの。」

T：「Aもそういう経験があるの？どういう相談だったの？」

A：「相談というか、遅れてるって・・・。」

T：「彼女から？」

A：「ヤバイナっと思って・・・。」

T：「ウン、そしてどうしたの？」

A：「踊った！（笑）なんかしらないけど踊っているうちに血出てきた・・・！ビックリ！ビックリ！」

T：「あ～、そのあとAの行動は変りましたか？」

A：「変わりません。」

T：「変わりませんというのは？これからも含めてかな。」

A：「これからは、きちんと避妊しようと思うね、」

C：「俺は懲りないね。」

A：「生もいいけどね。」

C：「やっぱり生でしょ。」

T：「という意見に対してDはどう思いますか？女

性として。Fはどう思う？こんな人と付き合いたいと思う？」

F：「生でもいいんじゃない？」

T：「真面目に。（笑）」

F：「真面目だよ。生でも別にいいよ。」

C：「ビールみたいに生でグッといくかい？」（と調子に乗っている。）

F：「やばいな、1年！」

T：「はいはい、こんな1年生に対して先輩として何か言ってやってください。」

A：「避妊は大事だよ。」

T：「そのことをきちんと議論しようよ、やっぱり。好きなこと言って終わるんじゃなくてサ。ちゃんとCに教育してやらなきゃダメだよ。」

C：「だってサカリだもん、」



B：「ウェー」

T：「サカリって動物と同じでしょう。」

B：「やっぱりコンドームだよ、あの薄いやつ。」

A：「ハイパーコンドーム。」

B：「そうそう、あのガッツ一番薄いやつなあ。」

F：「あれって、それ、破けそうじゃない？」

B：「う～ん、でも、強力でしょ、それ。」

T：「それどこに売ってるの？」

B：「え、どこにでも売ってるんじゃないの？」



A: 「ハイパーコンドームってありますよね。」  
T: 「それって装着感ない感じなの？」  
B: 「わかんない、つけてこないから。」  
T: 「フーン、はい、それ使ったことある人！」(シーン)  
T: 「使ったことはないんだ。」  
A: 「コンドーム高いサ！」  
C: 「高いね！」  
A: 「高いからみんなつけないサ。」  
T: 「えー、そうなの！」  
C: 「買いづらいよね。」  
T: 「ハーハー、なぜコンドーム使えないのかということね。」  
A: 「コンドーム自販機とかあればいいね、うんと増やす。」  
F: 「コンドームの自販機だけ作っちゃうとかね。」  
E: 「でもその前にだけいるのもいやじゃない。」  
F: 「あ〜、だよねー。」  
B: 「ジュースの自販機の横にあればね。」  
F: 「自販機あるのはいいさ。そこの前で買ってる時に、先生方通りかかって“あんた何買ってるの”っていわれたらねー。そこでつかまったら話にならないしね。」  
T: 「タバコの自販機の隣って何かまずい気がするけど、買うのは大変だというのは実態なんだなあという気がするね。」  
A: 「いや、まじ高いもん。」  
D: 「安いのは安いから！」  
T: 「Dはどこで仕入れているの？」  
D: 「Dは無印良品。」  
T: 「無印良品？ってどこに売っているの？」  
D: 「服とかね、食材とか、全部集まっているの。函館の西武にある。」  
T: 「函館の西武にコンドーム売っているの？」  
D: 「売ってるよ。」  
T: 「みなさん、ねらい目。ウーン」  
D: 「色んなものってわかんない。1種類4つで280円。」  
A: 「安い！」  
D: 「しかも使いやすい！みたいな。」  
T: 「あー、そうなの。」  
F: 「さすが先輩。」  
D: 「まじ、それじゃないとダメみたいな感じ。」

A: 「やっぱり無印だな。」  
D: 「そう、無印買いダメみたいなの！」  
T: 「でも買う時に恥ずかしくはない？」  
D: 「ウーン、全然！」  
A: 「恥ずかしくはないよな。」  
D: 「自分のものとかも売ってるし。」  
A: 「コンビニも何ともないよ。」  
D: 「コンビニはやだね！」  
A: 「1年生の時にエロ本買うときには恥ずかしかったけどね。」(一同 笑)  
T: 「A、今Dの話だけど、函館までいくのは大変だよな。身近にそういう店があればいいね。」  
A: 「いいっすね。」  
E: 「知らないところに行けば買えるけどサー、近くならちょっとね。」  
F: 「学校で注文とりすればいいんじゃない？コンドーム売っています、とかサ。そしてみんな買うとかサ。」  
C: 「それいい、それいい。」(みんなノリノリ)  
T: 「わかった、考えとくわー。なるほどね、Eはどうやって仕入れているの？」  
E: 「うちは向こうに・・・。」  
T: 「そうか、彼が頑張ってるんだ。」  
E: 「いや頑張っていないけど、彼が、前、札幌に行ったときに、知らない人たちだから買ってきてた。」  
C: 「親とかすごくない？箱で買ってるさ。」  
F: 「マジで？」  
C: 「いや見たことない？」  
F: 「ある！」  
C: 「箱の中にゴッソリ入ってるサ。30 コくらい入ってるサ。」  
T: 「それ何でみたの？偶然みたの？」  
C: 「たまたまね、部屋の中でね。」  
A: 「茶の間のテーブルの上にあったらおかしいよね。少しそれもらえばいいっしょ。」(笑)  
T: 「大人もね、通販で買っているのかもねー。Bはどこで買っているの？」  
B: 「買ってない。」  
T: 「買わないでつけないの？」  
B: 「そうそう。」  
D: 「えー、なんで！絶対やだ！」  
T: 「えー、先生もやだねえ。望まない妊娠をした

くない時につけない男性となんていやだねえ。」  
C：「えー、生ないの？」  
D：「えー、あるよ。でも、1回あせてるからね、絶対いやだ。」  
C：「だべー。」  
A：「エーッ！」  
T：「あのね、Dの意見で貴重だよ。」  
D：「そうだよー。」  
E・F：「うちもあるよ、遅れてあせったこと。」  
D：「でしょ！でしょ！あせるよねえー。」  
E：「そういうの1回あるから気をつけるよね。」  
F：「ということは先輩あったということ？」  
D：「だから、あせるっしょ。あ、まずいと思って検査薬買って“あー、セーフだ、大丈夫だ”みたいな。」  
F：「うち、あまり遅れることないからなあ。」  
A：「彼氏、絶対えらいわ、本当。」  
T：「いい話だね。今の彼氏？」  
D：「そう。」  
A：「彼、でも生いいっていうでしょ？」  
D：「うん、でもダメ！やらせない。」  
T：「Dがちゃんと要求して、彼がちゃんと認めてくれて、ね。Aはこういうカップルをみてあなたは どう思う？」  
A：「すばらしいね。」  
D：「ハッハッハ。」  
C：「すばらしいね。」  
T：「Aも見習って！」  
A：「見習うよ、オレ。彼女も生派だったからね。」  
T：「そうかあ。」  
A：「あのさ、今度からさ、つけようと思うよ。」  
T：「Aは今付き合っている人はいるのかい？」  
A：「いない。だれか紹介してよ。」  
T：「今度付き合う時はちゃんと避妊すると……。」  
D：「絶対無理だね。」  
A：「いや、オレ下ネタばかりいうけどね、オレやらないからね。」  
T：「避妊について……。Cの考え方はどうかかなー。」  
T：「避妊について先ほどの女性陣の意見を聞いてCはわかる？」  
C：「わかるよ、でもやんない。」（笑）  
T：「Cの付き合う女性はこういう女性はいなかつ

たの？何回も相談したっていうし、Cもかわいそうだな、妊娠したら、とか思わないの？やっぱり男もかしくなきやと思わない？……なんて私語ってますけど。」（笑）  
C：「うーん、でもやらない（避妊しない）。」（一同“うーん”）  
F：「なんで生でしたがるの？」  
B：「もし付き合ってた女が生ならいやだって言ったらどうするの？」  
C：「うーん、それならつける。」  
A：「オー。」  
C：「生でもいいって言う女としかやらないもの。」  
B：「えー、その女は生でもいいって言うんだ。」  
T：「えー、その女性はアホだね。」  
C：「アッア〜〜。」  
F：「あ〜、侮辱されたよ、侮辱されたよ。今、彼女。」  
T：「そりゃそうだよ。あれ、私の意見、言っちゃっていいのかなー、アレー。でもそういう行動をとる女性に対しての私の意見だからね。」  
C：「いや、言っちゃっていいんじゃない？」  
T：「Cね、さっきのBの“生だったらいやだ”という女性に対してどうすんのっていう質問に“つける”って言ったでしょ。それで安心した、私。」  
C：「安心した？」  
T：「そう、安心した。あなたはそういう女性と付き合いなさい。」  
B・F：「そうだ！そうだ！」  
A：「やっぱ、つけた方がいいっすよね。」  
T：「うん、そう。でも私が言うんじゃないで、女性軍もっと言ってやって！男性達を変えていかないと！。妊娠するのは女性なんだから、ねえ。」  
E：「男なら逃げれるっけさあ。」  
F：「うちも逃げる、あつはつは〜。」  
B：「女で！」  
C：「痛いんだよねー、コンドームが。」  
F：「痛いって!?あわないんじゃないの。」  
C：「合わないさー。」  
T：「ふーん、つけたことあるの？」  
C：「あるけど、合わないっさ。ギュギュギュギュ、入んねえー。」  
T：「サイズがあるのかな。」  
B：「ある。ある。」

T:「ふ〜ん、そうしたら合うサイズ探してくれば？  
その辺に売ってないの？え？Aもそうなの？」  
A:「すぐ抜けるしー。」  
C:「しかもいけないし。」  
T:「へえー、買いやすくてちゃんと合うものがある  
れば避妊の避妊の回数は増えるね。」  
A:「あと値段。何であんなに高いの？」  
T:「今いくら？」  
F・A:「千円。」  
T:「いくつで千円？」  
F:「12個で千円。」  
A:「1個100円だべや、高くない？」  
C:「1回100円だべや。」  
D:「たかが100円でしょ。何が高いつて。100円  
だよ！それで高いんだったら、女の方はどうすんの。  
なんだかんだで最後お金かかるんだよ。」  
T:「そうだよ！」  
D:「先生言って！検査薬1200円もするんだよ。」  
A:「高ケー。」  
D:「高いでしょ！1200円もするんだよ。2本で  
680円とかあるけど高いっしょ！1本でも・・・。」  
B・C:「高ケー。」  
D:「マジ高いから。」  
T:「ねえ、女性の側に立ってほしいよね。私、D  
の味方だわ。こういう2年生のDの話についてどう  
思う？」  
F:「先輩として尊敬しちゃう。でもうちら付けな  
いよ！みたいなー。」  
T:「何でつけないの！何でFの彼氏につけさせな  
いの。」  
F:「金ないからね。」  
A:「そうすよ、学生だからね。」  
F:「できたらどうする？産むよ。」  
D:「おろすの7万ぐらいかかるんだよ。」  
C:「ウン十万ぐらいかかるんじゃないの？」  
A:「早いうちだったら安いんだよ。」  
T:「12万円くらいって言ってたね。それでおっ  
かないのは、牟禮先生も言ってたじゃない？手術は  
そんなに難しくないし、安全なんだって。あとが問  
題。手術したあとにまず安静の体制がとれるかって。  
子宮を休ませなきゃならないから。休まなきゃダメ  
だし、感染予防の薬を飲まなきゃだめなのね。とい  
う予後があるわけ。子宮の内容物をとった後にね。

大事にしなければならぬ。でないと次の命を育め  
なくなるという後遺症が出てくる。ここが大事なん  
だよねえ。」

A:「先生、あれでしょ、コンドームってさ、性病  
予防もあるんでしょ。オレさ、そっちの方が大事だ  
と思うんだよね。」

T:「はい、そうだね。今度はその話をしよう。」

A:「妊娠させるのと病気になるとどっちこわい  
ですか？」

B:「どっち？」

C:「うーん。」

B:「ハッハッハッ！」

C:「性病って治るの？」

T:「うん、性病はきちんと病院に行ったら治る。」

D:「性病よりエイズ怖くない？」

T:「うん、エイズイコール性病だからね。(一同  
大爆笑)なるほど。」

D:「(笑いながら)私は性病とエイズは別物ださ！  
(一同“へえ〜”)

A:「エイズの方は強いからかー。」

D:「そうそう。」

B:「1位！」

D:「そうそう1位。」

A:「2位3位は争ってるわけか。」

T:「なるほどね。性病で亡くなる病気の1つがエ  
イズだからね。」

A:「そうすよね。」

T:「それ以外にもあるよね。牟禮先生も言ってい  
たでしょ。」

F:「誰？牟禮先生って！」

T:「この前講演会をしてくれた牟禮一秀先生。」

C:「俺、聞いてねえな。」

F:「室蘭の？」

T:「そうそう。」

A:「性病、怖いつて、マジで。」

C:「俺、聞いてかった、マジで。」

T:「今、Aが言ったみたいに、性病、正しくは性  
感染症っていうんだけどさ。それを予防するには、  
大きく1つしかない。その1つはコンドームを性交  
の時にね、使用するということね。お互いの粘膜ど  
うしで感染しちゃうから。さっき言ったエイズも  
増えてきていて、実は若者に増えてきているのね。  
また新しい実数が出てくると思うけど。それからよ

く出てきているクラミジアというものがあるでしょ。」

A：「それ、怖いっすね。」

T：「クラミジア、これは症状がないから怖いし、女性が不妊症になる原因になるからね。」

D・F：「えー!!」

T：「それから非淋病性の尿道炎と言って、これも症状が出にくいし。」

A：「淋病は!？」

T：「淋病は痛みが出たり、膿が出たりして。」

A：「今の若者ってさ、今のうちらさ、妊娠よりもサ、性病の方が怖くない？」

F：「そうかも。」

E：「うん。」

T：「じゃあ、勉強ね。どうしたらいいと思う？さっき答えを言っちゃったけど何をしなきゃならないと思う？」

A：「はい、テントを張る。」

T：「はい。」

C：「おれ持ってるよ、淋病、クラミジア!」

F：「持ってるの？」

D：「感染しそうだし!」

A：「持ってそうだね。」

D・E：「持ってそうだし!」

A：「今、増えてるっていうっけさ。」

T：「そうだね。今10代の4人に1人っていわれてるよね。すごい感染率。それで症状がないから余計どんどん広がる。Cは10人くらい付き合ってるって言ったっけ。もしCが持っていたらだよ、もしかしたら、その10人にうつしているかもしれない。その10人の女性に。」

C：「ウン、でもそんなにやってないよ。」

T：「そうか!」(笑)

E：「感染して増えていってるってことでしょ。その原因つくったの誰よ!」

F：「知らね!その元祖は知らないサ。」

E：「元祖をみつけてさ、つぶせば早いかもしれない。」

F：「先祖をみつけてのせば早いかもしれない。」

T：「そうだね。でもこう考えてみれば、セックスって色んな問題を抱えていて、だから好きだったらいいわ、セックスしていいわって風にはならないんじゃないかな。妊娠という問題もあるし、性感染症

の問題もあるし……。で、さっき言ったコンドームをつければいいっていうことね、コンドームつけていても、うつる病気もあるんだよね。」

A：「毛ジラミ!」

T：「そう、毛ジラミ。あと知ってる？」

D：「えー、エイズはー？」

T：「そうだね、エイズはコンドームをきちんと使っていたらほとんど感染しないね。」

F：「うっそー!」

B：「でもあれでしょ、キスしてもうつることもあるんでしょ。」

A：「あーそうだね。フェラチオとか。」

T：「くちびるに傷なんかがあったら感染することもあるね。さっき言ったフェラチオかい？それではクラミジアがうつるね。コンドームつけていないペニスを女性がね、口でくわえるってやつでしょ。ペニスにクラミジアのウィルスがあれば女性の喉の奥について……。」

E：「それからどうなるの？」

T：「また次の機会に同じことしたら男性のペニスにうつるよね。」

D：「その口でキスしたら相手にうつるの？」

T：「あー、うつることもあるよね。」

A：「エー、うつるの？喉の奥から？ヤベー。」

T：「だからねー。」

A：「ヤバイっすね。」

T：「非常に無防備だよね。コンドームつけなくて色々な行動とるということは怖い。」

F：「でもコンドームつけてフェラるやつもないくない？」

C：「試しにやってみる？」

F：「何がー。」

C：「ゴムくさいだけでしょ。」

T：「だからその辺すぐく難しいよね。」

B：「でもこういうこと考えていったら何にもできないよね。」(一同“うーん”)

T：「だからね、若いうちに不特定多数の人達と交際しないとか、検査をしておくとか、そういうことだよ。」

B：「えっ、クラミジアとか治るの？」

T：「えっ、治る、治る。抗生物質をきちんと飲んでいけば。」

E：「でもさ、検査とか病院に行くのとか、いやじ

やない？」

T：「そうだよね。」

F：「だってさ、親に何でそんな所に行くのって言われるよね。」

D：「保険証に産婦人科っていう判押されて。」

F：「“性病の検査!!” “あんた、やったのかい!?”  
って!」

E：「あとさ、この辺先生が亡くなったから病院もないよね。」

F：「そうだね。」

E：「そうなると八雲まで行かなきゃならないじゃない。」

T：「どういう風にしたら病院に行けるだろうかねー。」

B・C：「俺ら、行けるよ。」

D：「検査薬とか良くない？」

T：「ウン、いいね。あとは？」

A：「それいいね、性病検査薬。」

D：「うんうん、妊娠じゃなくて。」

E：「今さ。送れば検査してくれるのあるんじゃないか  
かったっけ!？」

T：「うーん、教えた、教えた。あのね、クラミジアの検査キットというのがあって、今それを作っているんだよね。」

B：「それを早く作ってよ。」

T：「今ね、定期健康診断の検査項目にね、身長・体重や尿検査と同じようにクラミジアとか性感染症検査入れたらいいんじゃないのって話をしているところ。」

B：「でもそれねえ、もし自分がもしそうだったらいやじゃない？」

A：「しかも呼ばれたら、お前クラミジアだろうって!」

D：「いやだよねえ。」（一同“そうだよねえ”）

D：「やっぱり自分で行った方が良くない？」

A：「俺行けるよ、普通に。えー、別に親も知ってるし。」

D：「えー、知ってるの？」

A：「うん、ちゃんとつけなさいよって。ちゃんとつけなさいよって言われるし。」

C：「知ってる。」

T：「えー、じゃあ、今の話題から変わってもいい？  
性感染症予防でコンドームを使わなければいけな

い。でもコンドームをつけてもうつる感染症がある  
ということで検査のキットがあればいいねということ  
だよ。それで病院に行くことが難しいという  
話が出て、もう少し話したかったんだけど、例えば  
様子がおかしいなと思って、どうしても病院に行か  
なければならぬ時どうする？」

F：「行く。」

T：「うーん、どんな風にして行く？」

F：「車で行く。」

T：「いやあそうじゃなくて（笑）。」

F：「ハハハ・・・。」

T：「保険証とかもらわなければならぬでしょ？」

D：「いやあ、今、病院で言えば病院名の押してく  
れないよね。」

T：「はい、実は今はそれがあります。」

E：「エー、ウッソー!」

D：「番号だけ控えておけばハンコ押さないでくだ  
さいって言えば押さないでくれるんだよ。」

T：「今、病院名押さないところもあるから。頼む  
ことできる。それから？」

D：「えーそれだけ。でもそれって保険証に何も書  
かさんないってということ？」

T：「うん、で、お家の人には何て言って借りるの？」

D：「え、黙って持っていく。」

T：「あーそっか、そっか。」

D：「うん。」

F：「えー、行ったことあるの？」

D：「ないっすよー。」

A：「えー、ウソ、ウソ。」

D：「ないよー。」

B：「なんか疑いたくなるようなー。」

F：「ちょっと疑ったな。」

T：「結構性感染症の相談があって、その人方はね、  
どうやって親に言うかということ、月経異常、あの生  
理が不順できちんとかないということを相談する  
ために病院に行くからお金ちょうだい、保険証貸し  
て、と言ってるよ。」

E：「でもさ、八雲総合病院はカードがあるでしょ、  
受付のところよね。それ入れたら受診している科が  
出るでしょ。すぐ親にバレちゃうでしょ。」

T：「あー、出る出る。」

E：「親に内緒で言ってもバレるなー。」

D：「過去に行ったのが出るということ？」

E: 「ウン。」  
T: 「そうだね、出るからね。親に堂々と言った方がいいよ。」  
A: 「親に言えばいいじゃん。」  
D: 「個人病院に行けばいいでしょ。」  
E: 「あっ、そっか。」  
T: 「個人病院でも良いし、月経異常とか別の理由使って堂々で行けば。」  
F: 「函館の病院。皮膚科に行ったついでに行くとか、全科共通だとか。」  
C: 「隠すより良いよ。怒られるかもしれないけど。」  
A: 「隠すより、医者に行った方がいいよ。おれも言われるもん。子供でできたら言えよって！」  
T: 「あ、お父さんお母さんにかい？」  
B: 「おれ、言えねえ！」  
F: 「Aのうちの父さんたちはいいよね。」  
B: 「うけるもんね。」  
T: 「でも、実際“できた！”って言ったら困ると思うけどね。」  
A: 「困るよね。」  
T: 「それをね、わかってもらうために言ってるんだと思うんだけど。」  
E: 「そうになったらどうなるんだろうね。」  
F: 「うちは間違っただけはするんじゃないよとは言われるけどね。」  
D: 「そう、遠まわしにね。」  
F: 「別にやるな—と言われるわけじゃないけど。」  
E: 「子供とかつくるんじゃないととかは言われないうね。」  
A: 「やるなとも言われないうね。」  
C: 「誰もいないと思ってやってたら、いたからね。」  
(一同 “エッ”)  
C: 「びっくりしたよ。」 (一同 “エー!”)  
C: 「声は聞かれるし。」  
A: 「大丈夫だ！俺なんて、彼女と風呂入ってたさ。そしたら親が帰ってきて、家に。あの時はビビったね、マジに。」  
F: 「そうしたらどう対処したの？」  
A: 「俺も普通に。」  
F: 「それで出てったの？」  
A: 「うん、終わり。」 (一同 笑)  
D: 「でもその場はそれでも気まずいよね。」  
A: 「でも彼女も家族ぐるみだったからね。」

T: 「それ何年生の時？」  
A: 「それ、昨年。」 (一同 笑)  
A: 「昨年の入ったばかりの時かな。」  
T: 「本当！そうか、そうか。でもそんな風にオープンな家族だといいいねえ。」  
E・F: 「いいねえー。逆にいいよね。」  
D: 「そっちの方がいいよねえ、絶対。」  
A: 「良いよ、マジで。エロ本とかも普通に見るよ。」  
T: 「だからこそ、きちんとしなきゃダメだね、A。」  
A: 「そうすね。」  
T: 「そこまでオープンにきちんと受け止めてくれるんだものね。」  
T: 「うーんと、Dはどう？お家の人との関係は。」  
D: 「えー、別に—。」  
T: 「彼と付き合ってること、もう公認でしょう？」  
D: 「別にやるんじゃないとかは言わないけど、変なことするんじゃないよと言われる。」  
T: 「それに対してどう思う？」  
A: 「従う!？」  
D: 「よし！みたいな。」  
A: 「もうまわってきてるもの。さっきまで正統派みたいな感じでいたのに、こっちに回って来てるゾ。」  
T: 「あれは、親を安心させるという気持ちではないの？」  
D: 「いや、別に。笑ってごまかして。」  
T: 「やっぱり信じられているという感じがする？」  
D: 「というか、わかってんじゃない？親も。」  
T: 「うん、うん。うちの娘、変なことはいわ、というのはわかっているんだよね。」  
A: 「わかってるんだべ。」  
D: 「変なことって、どこまでが変なことなの？」  
T: 「うん。」  
D: 「親からしてみたら、何をやっちゃいけないの？」  
T: 「望まない妊娠をすとか、性感染症を引き受けることとかそういうこと・・・。」  
D: 「そりゃないよねー。」  
T: 「それは気を付けているという、ということね。それじゃ、Eはどうだい？Eのお母さん、厳しいんだよね。」  
E: 「厳しいー、ウー (泣きそうな声)。」  
B: 「厳しいってどこまでが、どんなのが厳しいっ



てよくわかんないな。」

E：「厳しい、厳しい!。」

T：「それって女親だとよくわかる!」

E：「今何時?」

T：「いや、お家に電話してあげる。」

E：「いや、部活とかだったらいいんだ。」

A：「門限何時?」

E：「冬だったら4時半。」(一同“ウーン”)

E：「夏でも5時半。」(一同“ウーン”)

E：「とにかく暗くなったらダメなもの。」

T：「うーん、男女交際については?」

E：「男女交際?うーん、ちょっと親の意見聞いてないから。」

D：「親知ってるの?」

E：「付き合ってることはしってるんだけど、あんまり、全然。」

D：「会ってない感じ?」

E：「うん。」

D：「ということになってるんだ。」

F：「それ、ヤバくない?」

D：「ふーん。」

E：「困ってる。」

A：「紹介してやれ。」

(このやりとりのところを写真に撮ろうとしてTが動き出す。オレいやだよ〜、魂抜かれるー、とか、いいでしょ、1枚や2枚とか、ワイワイ言いつつちょっと中断。)

E：「でもねえ、本当、向こうの親には知られてるんだ。公認っていう感じなんだけど、うちの親は全然。ダメ。うん。つらい。」

A：「何よ。」(一同 深刻な顔)

B：「深刻・・・。」

E：「やっぱ、親に認めてもらいたいと思うよ。」

T：「うーん、親に認めてもらうための行動ってとってる?」

E：「「いやあ、とるっていったって、何・・・絶句・・・ハハ!!」

T：「例えば、門限きちんと守るとか、家の中の仕事きちんとやるとか、やることやる・・・。」

E：「やー、だってえらいよ!やー、ちゃんと朝仕事してから学校来てるもの。」

T：「そうか、そうか。」(一同 感心!!)

D：「やー、何でダメなんだろうね。」

T：「え、何?ちゃんと問題提起して。なにになに?」

D：「あのさあ、交際。」

T：「あ、高校生の交際を親がなぜダメだと言うか?うん、何でダメだっていうんだと思う?」

E：「わっかんないー。」

T：「みんなそれぞれ親の気持ちになって、何でダメだって言うんだー!」

D：「ダメって言われたことないからわかんない。」

E：「だってさ、自分たちが判断すればいい話でしょ。だからさ、付き合っているのは別にいいんじゃないって思うけど。」

F：「あんたたち、子供つくるんじゃないよ。何ほやってもいいけど、みたいな。」

A：「紹介した方がいいって。絶対。」

E：「っていうか、1回会わせたことあるんだけど、すごかったんだ。何ていうか。」

A：「そうそう、絶対いいんだ。会わせていけば・・・。」

E：「そうじゃないんだ。なんかね、1回学校祭準備の時に、なんて言えればいいんだろうね。」

F：「夜来たさ、Eうちに。私泊まってたさ、Eうちに。」

C：「あの時か?」

F：「うん、あの時。それで電話したっしょ。12時くらいの時にきて、それでFがいたから、そこでただ2人で話していたんだ、2人でね。そしたらお母さん出てきて“あんたたち、こんな時間に何やってるの”って言われて、“家に入ってくるんじゃない”って言われて。そのあと“入ってくるんじゃない”って言われたから入れなくなったんだ、家にね。仕方ないから外で話をしていたら、お母さん出てきて“こんな子に育てるために、うん?こんなことするために育ててきたんじゃないからね”とかG(Eの交際相手)に言って・・・。それでなんか・・・。」

D：「えー、それ厳しすぎない?」

F：「う〜ん。」

A：「負けんな、負けんなー。」

F：「厳しすぎだって。」

D：「守んな、守んなって、そんなこと!」(一同笑)

T：「Eはそんな風に親に言われて、それお母さんかい?」

E：「うん。それで・・・。」

T: 「うん。」  
E: 「なんていうか、私はお母さんに“ごめん”って言ったんだけど、Gは、いや、Gに何か言ったんだよね、お母さんがね。それで、Gはうちがお母さんに何か言われてたたかれたんだ、物で。それで見てたかかれたのがムカついたらしくて、お母さんに何か言われたときに“（反抗的な物言いで）あぁ？”って……。 (笑) 言っちゃったんだよね。」  
D: 「いやぁ、ワヤ!!」 (一同“あれあれ……”)  
E: 「うちのお母さんにだよ、それで、だから、もう……。」  
D: 「えー。それで切れちゃダメさ。」  
A・B: 「ダメさ。」  
E: 「お母さんとけんかしたのがね。」  
A: 「今からあやまれば……。」  
T: 「女親っていうのはね、結構女の子に対してはねー。そしてFたちはオープンなのね。」  
F: 「オッケー、オッケー。何するにもオープンだー。」  
E: 「うらやましいなー。」  
T: 「それは何でだと思う？」  
F: 「知らない。放つたらかしにされてるからなんじゃないの？簡単に言えば。」  
T: 「そんなことではないと思うけど。」  
F: 「いやほとんどそんな感じだよ。」  
D: 「でもねえ、それ守ってるからえらいんだよねー。」  
A: 「親はさ、彼氏のこと知ってるんでしょ？」  
E: 「ううん。」  
F: 「うち？うちは知ってるよ。」  
D: 「多分ね、反抗し続けると、親あきらめるよ。」  
F: 「そうそう、うちもうあきらめられてるもん。」  
D: 「うちもね、だんだんあきらめられてっから。それが、今やることが普通になっちゃってる。」  
A: 「そうかそうか。」  
T: 「あっそうか。親の気持ちわかっていて……。」  
D: 「いや、最初ヤバいなーって思うんだよね。ちゃんと守ないと、と思うんだけど……。」  
T: 「その“守らないと”の中身は？どんなことを親に言われたの？」  
A: 「時間!!」  
D: 「時間……。」  
T: 「時間かー。」

E・F: 「そうだね、時間だねー。うちもそうそう。」  
T: 「やっぱり時間のことを言われる。最初、何時に帰って来いと言われたの？」  
D: 「10時。」  
T: 「夜の10時!?!」  
E・F: 「オーツ、10時!?!」  
D: 「え、最初っていつ？えー、だって。」  
A: 「ドドーン、だよな。」  
D: 「えー、だって、学校帰宅時間10時まででしょ、門限ね、高校のね。」  
T: 「それは行事の時じゃないの？違うの？」  
D・F: 「普段も10時にしてるよ。」  
A: 「オレ、朝の10時だよ。」  
T: 「10時! (笑) Fのところは？」  
F: 「うちは門限ないけど。」  
A: 「仲いいんでしょ。」  
D: 「仲いいんだけど。」  
T: 「ま、いいや。それで10時だったのか!?!」  
D: 「10時だったのがー、12時になったら電話かかってくるんだー。それで最強に怒られたのがー、2時ぐらいに遊びに行つてゲームやっていて、それ友達だったんだ、そしたら親が起きてきて“何やってんだよー”って。」  
T: 「それお父さんが怒るの、お母さんが怒るの？」  
D: 「お父さん。怒ってるっていうか……。」  
T: 「それでも、ちょっと常識はずれというかね。」  
D: 「常識ないゾって!」  
A: 「常識ないもの。」  
D: 「ハハ。」  
A: 「わるいけど、ないゾ!みたいな。」  
T: 「ハイ!!次A。男の子の門限って？」  
A: 「門限ってないっすね。家に1本電話すれば。」  
C: 「そうかい、大丈夫かい。」  
A: 「家に必ず連絡しなさいって言われるんだよね、いっつも。」  
C: 「いいね。」  
F: 「そしてうちに帰って怒られるんだよね。」  
A: 「いいや、彼女のうちにいるとか、誰のうちにいるとか言えば、全然何ともない。」  
(一同“へえー”)  
A: 「とりあえず彼女できたら、そっこうー、親に紹介するとか。」  
T: 「ふんふん。」

A:「そして彼女と親が仲良くなって、そしたら何も言われなくなる。」

T:「へえー、なるほどね。門限も言われなくなる。」

A:「彼女といたら、もうOK。」

D:「いや、うちはでも彼氏といるからなんて言わないね。余計その方が勇気いるっていうか。」

E:「うちも言えない。友達といるとか。」

F:「うちはいうね。」

A:「俺は言う。」

T:「なるほどね。親に心配かけないためにね、いい方それぞれあるね。」

A:「でしょ。でも遠まわしに言ってるのでは。」

A:「旅行とか行ったことあるよ。彼女と彼女の親とうちの親と。」(一同“えー”)

T:「へえー、そういうのっていいよね。A家の独特の良さだよ。」

A:「うちの親ってバカだからね。オレに似て。」(一同 苦笑!!)

A:「いや本当。オレ絶対似たんだよ、親に。」

D:「いやあ、絶対いいから、Aのうち。」

B:「だって絶対父さんとキャラかぶってるよ、Aは。」

F:「A、この前うちの母さん、Aのうちに遊びに行ってたっしょ。」

A:「うん、来てた。」

T:「で、Eの家の門限は?何時って言ったっけ?」

E:「うち?未だに冬だったら4時半……。」

(北海道ではジュースなど“冷たい”ことを“しゃっこい”ということの説明。)

T:「あれ、どこまでいったんだっけ。Eの門限の話になってたんだよ。」

E:「4時半!!」

T:「えー、Eは4時半かい!えー、それでさっきのごたごたが……。」

A:「そうそう、4時半は早いっすよね。」

T:「対称的だよ。でもそうやって守っていることはすごいことだけだね。で、Fのうちは門限ないんだね?」

F:「ないっすね。」

T:「ないの。」

F:「めし食ってくるわーとかいって、めし食って帰って、10時くらいに帰って……。」

A:「10時ならいいんじゃないの。」

F:「うん。」

A:「高校は10時までだよ。」

D:「そうだ、言いな、10時までだよって。でもうちの親なら“ウチはウチです”って言われる。」

(笑)

E:「よく言われるよね。」

T:「じゃあ、Cのところは?」

C:「うちは電話1本でOK。」

T:「電話1本でOK?」

C:「うん。」

E:「でもうちも最近そう。最近帰るの、7時半とかだったから、さっきも話が出てたけど、だんだんあきられてきたから……。あとうちちょっと!みたいな。」

T:「でもさっきのDの話じゃないけど、門限守ってあげるということはとっても親孝行なことだよ。」

E:「でも、結構うち親の言うこと聞いてるから……。」

D:「親が寝てから動けばいいでしょ。」(笑)

E:「無理!」

D:「親寝てから……。」

E:「無理無理!」

T:「あんまり教えないように。(笑)」

D:「あっはっは!」

F:「あ、家抜け出して!よくやったことあるなー。」(一同“えー!”)

E:「スリルあるよね。」

F:「うん!」

T:「Bのところは何時って決められてるの?」

B:「俺?」

T:「汽車時間で!」

B:「じゃない?きっと、多分。」

T:「汽車時間で帰ってきて、それ以降は出られない。」

A:「抜け出せないの?」

B:「うん。」(一同“ふーん”)

T:「そういう意味ではえらいよね。この中で1番きちんとしてると思うわ。EとBと。」

A:「(脱出を)試みたことは?」

B:「いや、あったけど……。」

F:「Eもあったよね。たまにウチに呼んだり抜け出したりね。」

E:「誰も家にいない時とかね。Fは1階だからいいサ、部屋からポンと外に降りれるからね。」  
F:「どこでも行けるとしたら行けるね、いつでも。」  
E:「うち、はしごないと降りられないもの。(笑)」  
T:「今うちの人のこと話題になっているんだけど、うちの人にね、色々な性について、例えば妊娠だとか、避妊だとかそういうことを教えてもらったこと、ある？」  
A:「ないね。」  
D:「ない。」  
F:「ないんじゃない。？」  
T:「じゃあ、情報はどこから得てるの？誰から？何から？」  
A:「学校だね。」  
T:「うん、性情報の話に移ろうね。(Aに)この前の本どうした？」  
D:「そうだ！カナダのエロ本。」  
T:「探して持ってきてくれたかい？」  
A:「あ、ないよ。忘れてた。家に置いてきた。」  
T:「まあ、そんな話していたんだよね。とりあえずお家の人に聞くことはまずない？Cもない？」  
C:「うん。」  
T:「お父さんからもない？」  
C:「うん。」  
T:「Eもない？」  
E:「性とかははないけど、お母さんから生理のこととかは聞いた。」  
F:「生理のことって？例えば？」  
E:「生理が来た時とかお母さんに言わない？」  
C:「赤飯だべや。」  
F:「うち、赤飯炊くべって騒いだからね。」  
T:「初経の時ね。D、炊いてもらった？」  
D:「炊いてもらわない。」  
T:「初経があった時、話した？」  
D:「した、した、した。」  
T:「そしたら？」  
D:「う～んって。」(一同 大笑い)  
D:「だって覚えてないよ！もう大分前だもん。」  
T:「何年生の時だったの？」  
D:「D？中1。(笑)」  
T:「Fは？どうだった？」  
F:「知らない。どうだったろ。言って、赤飯炊いたの、うちの祖母ちゃんだったような気がする。」

T:「あー、でも炊いた!!(笑)」  
C:「おめでたいから。うちの妹の時にも炊いたよ。」  
T:「えー、Cの妹の時も炊いてくれたの？」(一同“へえー”)  
T:「あらあ、いいうちだねえ。」  
B:「というか、赤いから赤飯炊くんじゃないの？」(一同“へ!?”)  
A:「男はどうなんだろ？」  
B:「夢精した時か!?!」  
A:「うん。」  
D:「いやあ、赤飯炊くの、上にお兄ちゃんいたらいやじゃない？そういうことされると。」  
E:「あ、いやだァー。」  
T:「あ、そうかー。そういえば私も恥ずかしかったなー。」  
D:「いやだよねー。」  
T:「ちょっと何？Aが初めて射精した時にグラタン作ってもらったって!?!」  
A:「いやあ、僕らが夢精(初めて射精)したらどうすんのかなって話をしていたの。」  
T:「いやあ、私もそれすごく思うよね。女子が初めて月経があった時にね・・・。」  
C:「おれ、夢精したことないな。」  
F:「夢精って寝ながらでしょ。」  
B:「1回した方がいいよ。」  
F:「いいの？何がいいの？」  
T:「いやあ、そういうことじゃなくて、精通現象ってわかる？初めて射精すること。それが夢精ってことよくある。Aは？初めての射精、いつ？」  
A:「オレ、わかんねエー、そんなの。」  
T:「Dの初経は中1だった。Eは？」  
E:「うち、小5。」  
F:「うち？小6。」  
T:「先生、中1、なんてね!(笑)」  
A:「ヒー!!」(みんなつられて大爆笑)  
T:「ひどい～～。私だって月経くらいあるよ。あはは!」  
D:「あはは!なかったら困るって!!」  
A:「待ってよ、(いつ初めて射精したのか)覚えてないよ、全然!!」  
C:「えー、俺だって覚えてないよ。」  
B:「俺も。」  
T:「えー、精通現象って男の子にとって記念日じ

やないの？女の子と違うね。」

A：「そんなの覚えてないよね。」

T：「すごく大事な成長の印なんだよね。私なんか  
克明に覚えてるよ。」

A：「えー、その何？記念日って。」

T：「えー、だってそうでしょ！初めて赤ちゃんを  
つくる力ができたんだよ。」

D：「っていうか、うれしくないから。（笑）」

T：「えっ、そうなの？」

D：「うん。（笑）」

F：「うれしくないよね。」

D：「面倒くさいよねー。」

T：「月経を喜べないとだめだよー。」

E：「でもね、私はうれしかったよ。」

T：「でしょ？」

E：「友達から“来た”って話を聞いて、うちは来  
なくていつくるんだろうと思っていて、“やったー、  
来た！”」

D：「生理痛あるからね。」

F：「うち毎月こうだものね（とお腹を押さえる格  
好）。」

T：「でも、生理がくることは健康のパロメーター  
だからね。毎月あることがね。」

E：「先生、うち、まだおかしい。」

T：「本当？またちょっと調べてみようね。」

F：「っていうか、もう12月になるね、なるよね。」

T：「なるよ。どうした？」

F：「また、うち、生理くるか、こないかって騒ぐ  
んだよね、そろそろ。」

D：「いやあ。（苦笑）」

T：「君は怖いワ、そんな。」

F：「あと20日ぐらい。」

（話題変え）

A：「先生！先生！生理の時にね、セックスしたら  
ね、子供できないってというのは、あれウソなんでし  
よ!?!」

T：「何々？月経の時に性交で、コンドームを付け  
ないですということ!?!」

A：「うん、中出し。」

T：「ウソだよ。」

D：「できるよね。」

T：「うん、できる可能性はかなりあるよ。」

A：「膣内射精。」

C：「そう、中出し、膣内射精。」

T：「そうです。そういう知識をちゃんと持っている  
だけえらい。」

A：「えらいっしょ。」

T：「うん、そうだよ。ましてやね、月経の時にし  
ちゃ、かわいそうだよ。（強調!）女性は身体の中  
が敏感になってるしね。」

A：「おれはやらないよ。月経のときは。」

T：「そんなのね、細菌感染の心配もあるしね。」

B：「できねえもの。」

D：「死ねー!!」

T：「たたいてやって。（笑）さて、話をもとに戻  
して、月経中のセックスでは妊娠しないの？という  
ことではウソだよという解答になるんだけどさ、そ  
ういう情報も含めて、さっきの、ほら、どうい  
うところから性の知識を得てるんですか？君達は。」

A：「スカトロ？やっぱり本じゃないすかね。」

D：「やっぱり本だよ。」

T：「どんな本読んでるの？」

D：「普通の本。」

T：「たとえば？」

E：「何だろ、エッグとか見れば載ってるよね。」

D：「というか、小学校や中学校の時に、友達のう  
ちに泊まった時にエロ本とか買いに行かなかった？

E：「アッ、買いに行った！」

T：「エロ本って、例えばどんな？プレイボーイと  
か？」

A：「まだまだ、そんな甘くないっすよ！」

F：「女の子でいえば、やっぱりパステルとか。」

D：「そうそう、パステルティーンとか、エルティ  
ーンとか。」

A：「女性雑誌ね。」

T：「パステルティーンね。パステルティーン読ん  
だことある人！」

A・D・E・F：「ハーイ！（元気いい）」（4人  
挙手）

T：「実は私も読んだことあるんだよ。」

F：「え！ウソ!!」

T：「学校にあるんだよ。」

A・D：「そう、学校にあるの。」

T：「実はね、ある教室から出てきたの。担任の先  
生が“先生、こんなのが教室にありました”って持

ってきてくれたのね。あらあ!!こんなの読んでもんだあって。」

A:「パステル、勉強になるよ。」

D:「勉強になるよね。」

F:「いいことじゃない?」

T:「勉強になるか。でもかなり、あれだね、作ってるね、あれはね。・・・ということがわかる?みんなは、あの雑誌みて。」

E:「ウソー。」

F:「えー、どこら辺の場面で作ってるの。」

B:「見てみたい。見たことないからな。」

T:「(笑) 状況場面だね。状況場面で、あれはアダルトビデオをそのまま大人が。」

D:「体験談とかいうやつ?」

T:「うん、作ってるね。」

A:「アダルトビデオって変だよ。」

T:「うん、あの通りやってる人ってあんまりいないんじゃないのかな、と思う。でも多分あれを見るとね、興奮するしね、あんな風にみんなやってるのかなと思うと、私もやってみようかな、実体験したいと思うかもしれないけど。」

A:「色々やった方が楽しいとか思っちゃうよね。これがセックスの当たり前の方法(行動) かって思っちゃうよね。」

T:「そう、思っちゃうよね。それが怖いなあと思うね。」

A:「俺、最初、口内射精、信じられなかったもの。」

T:「口内射精って。」

C:「口の中で。」

T:「あー。」

A:「口内射精ね。」

T:「でもみんなパステルティーンは読んでいるんだね。エルティーンスペシャルは?」

B:「え、みんな知ってるの? C、お前知ってんの?」

C:「オレ、知らねえ。」

T:「Bは何を読んでいるの?」

B:「え? 普通だよ。」

T:「今の3年生、真面目だからね。」

B:「でしよう!?!」

A:「普通のエロ本? マンガ派? 写真派?」

F:「コスプレ系? みたいなの。」

B:「あ、ホットドックってあるっしょ。」

T:「あ、ホットドックね。」

C:「あーあ。」

T:「あとは? 女性雑誌は読まないんだっけ。」

A:「直のエロ本は? 本当のエロ本。」

C:「隠さないやつ。」

A:「メンズアクションとかさ。」

C:「なんで知ってるの。」

T:「そこでさ、ためになるって言ったよね。例えばFは、どんな風のためになるの? やっぱりためになるところあるんだよね。だからみんな読むんだよね。」

F:「どんなところって言われてもねえー。」

C:「意味不明だ。」

T:「そうか! いつ頃から読み出したの?」

F:「中2、中3じゃない?」

E:「中2の時とかはやった。興味深々で。」

F:「面白半分。みんなで買ってみて、回し読みして。」

T:「Dは初めて買ったのは?」

D:「えー、初めて買ったのは中1。中2や中3になったらもう見ないよ。」

A:「えー、おれ、今でも見てるよ。」

T:「え、パステル見てるの?」

D:「パステル? あれは女の子が買うやつだよ。」  
(笑)

T:「Fは今、何読んでいるの?」

F:「何も読んでいないよ。たまに兄貴の部屋になるエロ本探ってみたりして。エロ本とかエロピとかね。みたらビックリするね、マジで。兄貴の正体にはね。」

T:「いいって、言うんじゃない。(笑) (兄は本校の卒業生)」

A:「マジでオレもショックだ、なんかね。(笑)」

F:「すごいんだって! マジにうちの兄貴、こんなでっかいケースあるんだ。その中にエロ本どっさり入ってるからね。」

A:「マジにビビルな。」

D:「今度、出しとけて!」

F:「ビデオテープに、こう、1、2、3、4、5 かってね、小さく札貼らさっていてね。マンガかな、何かになって見たらやってるんだ。」

A:「え、貸せー“兄ィー”」

F:「A、これ秘密ね。うちがこんなこと知ってるなんて、兄貴知らないから。」

A: 「(本とかビデオとか見ている) 知らない性の言葉があれば調べたくなるんだよね、好奇心で。」  
T: 「へー、何で調べたの? どんなやつで?」  
A: 「そんなの覚えてないよ。」(笑)  
T: 「辞典とかで?」(一同“辞典!?”(笑))  
A: 「いやいや、エロ本。色々あるっしょ。何だこれと思って、ね。大人が言っていてわからない言葉とか、みたり(調べたり)するんでしょ、本で。それで色々知っちゃったからね、今は大丈夫。」  
T: 「今は大体、Aはほとんどもうわかってるって思う?自分で。」  
A: 「バババっと言われて、変な漢字とかわかんないよ。講演会の時の先生が言う〇〇〇病とかそういうのはわかんないけど……。」  
C: 「一般のやつ!!」  
A: 「一般のやつならわかるよ。」  
T: 「そうか、性情報というか、マンガや雑誌も結構参考になってきたんだ。色々。自分たちの知識を得るためにね。Eはどんなことが参考になったと思う?その中から。中2、中3の頃。」  
E: 「中2、中3の時?覚えてないな。」  
F: 「やったら子供できるのかなとか思ったけど。」(一同“そうだ、そうだ!!”)  
E: 「いつ安全日とか、そういうのが載ってるからそういうのかな。」  
A: 「そういえば彼女にそういうの見せられた気がするね。」  
F: 「えー、でもそれうち、お母さんに教えてもらった気がする。」  
T: 「へえ、お母さんに教えてもらったんだー。」  
F: 「かなり昔にね。」  
T: 「そうー。Cは?どんなのから知識得ていた?」  
C: 「同じじゃない?友達とか先輩とか、一番多いんじゃない?」  
F: 「やっぱり友達だよ。語り合うよね。」  
T: 「そうか、やっぱり友達か。いつどんな時にそういう話をするの?結構語り合ってるよね、みんな。」  
C: 「中学校の時は特に多かったね。ピッチリしてたよ。」  
A: 「ん。」  
C: 「やたらしゃべってるよ。」  
A: 「教室で!」

C: 「うん、今もね。」  
D: 「授業中とかもね。」  
F: 「真面目に話していることでも、答える時でも、すぐ下ネタにつなげたりね。」  
C: 「中1の時とかは激しかったね。なまらハイなもの。」  
A: 「おれら、今でもしてる。」(一同“えー!?”)  
F: 「でもある程度のメンバーでないと発展しないよね。」  
C: 「しかも、やっちゃえば、経験しちゃうと、話も変わるよね。」  
F: 「変わるよね、やっぱりねー。色々ね。その前よりは色々わかるよね。」  
T: 「今さ、例えば友達と話をしている、友達からいっぱい性情報得てるでしょ?今1番話題になっていることって何?Dの場合、高2の女子の間で話題になっていることって何?」  
D: 「うーん、あまり話し合わないから……。」  
T: 「あ、話し合うような話題はない。Aのまわりでは、今授業中たくさんしゃべっているでしょ、何?」  
A: 「避妊はしようね、という話になってきた。」  
T: 「えー、本当!!」  
A: 「あの、あれ、保健体育の時間にエイズのビデオを見たのサ。ザンビアの50%がエイズっていうやつ。」  
F: 「えー、何それ!!」  
T: 「ハイハイハイ、奥田先生見せてくれたの?」  
A: 「そう!それがすごかったんだよね。手とかもう“木”みたいになっていてね。」  
T: 「ハイハイハイ。」  
B・C: 「木!?!」  
B: 「木って?」  
A: 「それね、見た方がいい、絶対!。」  
T: 「それ、最近でしょ?」  
D: 「先週だよ。」  
T: 「クローズアップ現代という番組で、先生もとったよ。」  
A: 「なまらかわいそうなもの。」  
B: 「オレ、それ見てない!!」  
A: 「ただ死ぬのを待つだけだサ。」  
D: 「指も手足もやせ細ってー。」  
C: 「エー何でそうやってわかるの?」

E・F：「うちらも見たい。でも気持ち悪いヨー。」  
T：「2年生の保健で見せたビデオだけど、木太先生も1年生に見せてくれるよ。今性教育やっているでしょ。2年生の方が先に見せたんだね。頼みな、木太先生に！」

B：「おれ、見てない。」（彼は3年生）

T：「んー。」

A：「あれは避妊しないとダメだと思うよね。」

T：「あれはすごくいいビデオだよ。少し映像ビリビリしてなかった？」

A：「うん、大丈夫。」

E：「一人、ここに見れない奴いるよ。」

F：「うち、ダメだと思う。血とか見れないもん。」

T：「でも全部がその映像ではないから。内容良いよね。」

A：「でもすごいわ、マジで。ザンビアで50%だよ、半分だよ。」

T：「よーく勉強したね、ちゃんと。スゴイ！そしてお父さんお母さんがどんどん死んでいって、子供達が残って……。後はどう？」

A：「話題？」

T：「エイズにかかったらだめだ。コンドーム使おう！の他に。」

B：「アナルはやめよう！っていう話。」

A：「アナルはこれ、ダメでしょ！」

C：「痛いぞ！と。」

A：「アナルとスカトロはしたらダメでしょ。」

T：「うんうん、それ話題になってるの。」

B：「そりゃなるよね、絶対。」

C：「スカトロって何？」

B：「ウンコ、ウンコ。」

A：「ウンコ遊び！知らない？おしっことか。」

D・E・F：「やー汚い！汚い！！変態！！」

C：「それはよくないね。」

T：「それ、変態プレイだよ。あと話題になっていることは？」

A：「あとはないっすね、別に。」

T：「今、友達の悩み相談聞いてやっていて、今こんなことで悩んでるんだよねー、どうしたらいい？っていうの？話題提供、そういう友達いない？」

A：「うまくいってるよねー。」

B：「いないなー。」

T：「じゃあ、Bの中で、Bワールドの中で話題になっていることは何？」

B：「そもそも、そういう話がないもな一。」

T：「悩みもない？」

B：「ないないない、そういうことは。」

T：「じゃ、Bワールドの中で性の問題を……。」

B：「な、なんでワールドになっちゃうの!?! (笑)」

T：「ウフフ、3年生代表だから。今、全体では3年生としては「何か話題になってるの？進路？」

B：「何も話題になっていないよね。ただ時間が流れているだけだよ、なんか。」

T：「淋しいね。」

B：「キムタクの話題なんて3秒で終わったからね。“キムタク、昨日結婚したでしょ” “エー、ウッソー” “エーそうなの” で終わり。」

A：「あの、あれは？あけぼの優勝！」

D：「うちらの中に出てないっしょ。知らない。」

T：「平和だねエ。」

B：「えっ？あけぼの優勝？」

D：「遅いし!!」

B：「えーウッソー、知ってんの、みんな！」

E：「知らなーい。」

F：「知らなーい。」

T：「え、知らないの？じゃ、若乃花の引退は？」  
(笑)

( 校内電話で中断 その間また北海道弁講座 )

T：「あとで楽しみにしてるから、北海道弁講座。

(笑) それじゃ、それが3年生の世界ね。それじゃEは？EとFとで今の1年生の話題。」

B：「C、ハブ!?!」 (笑)

F：「1年生の話題？ないね！」

T：「ないかい？」

E：「話題？例えばどういうこと？」

T：「男女交際に関してとか、あと、友達から知識を得るということで、Cも含めてね。今1年生でどんなことが話題になっていて、あと悩み相談でこんな話あったよーとか。」

E：「普通の恋愛相談とかはあるけどねー。」

T：「あ、誰か好きとか、別れたとか付き合ったとかね。」



C:「あるとしたらね、長野先生がどうやっていつも車曲がって停めているのかということかな、えらい曲がってるよね。」(E・F 大爆笑)  
T:「誰、話題にしてるの、ソレー!!Cでしょ。(笑)」  
F:「みんな見てんだね。(笑)」  
D:「先生、今日車違うっしょ。」  
T:「あ、違う!」  
C:「いつも曲がってたよね。ガッツリ。」  
F:「なんで。」  
D:「急いでるんじゃないの、毎朝。」  
F:「いやいや、次の車とめんの、迷惑だってエー。」  
C:「ダイエーとかでもそうなの?」  
F:「いや、チョットね。他のドライバー、駐車場2個使うんじゃないかエーよ、みたいな。」  
T:「悪い方向にいつてるね。いや本当に下手くそなんだよね。」  
C:「そんな話題だね。それを置いといたとしても、ないね。」  
T:「そういう意味では、みんな、厳しい話題で悩んでないんだというのは確かなんだね。」  
T:「じゃあさ、そうそう、3番目のところの、今2番目、終わったんだよ。」  
B:「え!?!どこの3番?」  
T:「右側3番だよ。“性に関しての悩みはありますか。今まで男女交際について悩みがあった時、その悩みを誰に相談していますか”で悩みはない、と。ね、今のところ。でもE、悩みあるんじゃないの。」  
E:「ウ〜、放っとけ!!」  
T:「え!?!」  
E:「ウー、私のことは放っておいてくれ!!」  
T:「良いのかい?今ださなくて。」  
E:「いいんだよ。別れてやる!」(一同“えー!!”)  
E:「え!?!ごめん、あいつに言わないで!」  
F:「あー、問題発言!」  
B:「ええ、どういうこと?」  
E:「えー、お願いだから聞かないで!」  
T:「えー、そのことについては個人的に話をすることで。悩みがあった時、誰に相談してるかなということについて。」  
B:「えー、誰かに相談する?」  
T:「Bは1人で頑張って解決していく?」  
B:「だって、そうじゃない。だってさ、C、お前

誰かに相談する?性の問題。」  
C:「何?性の問題?・・・するなあ。」  
B:「ウソ。」  
A:「教育相談室なんか?」  
D:「性の問題?例えばどこからが性の問題?」  
T:「例えば、付き合うとか、彼女を妊娠させたかもしれないとか・・・。」  
B:「付き合う、付き合わないは相談するかもしれないけどさ・・・。」  
T:「Cは誰にしてるの?」  
C:「友達。」  
F:「うん。」  
T:「Fは相談にのってるの?」  
F:「うちは、Cのうちにたまに行って話すし、自分ものってもらおうし。」  
T:「Cは男だけど、相談相手って男性と女性と違う?」  
C:「どっこい!!」(一同“どっこい”)  
A:「あー、きた、北海道弁!」  
E:「男性と女性と同じぐらい。」  
T:「その比って学年によっても違うかな?」  
T:「Aは誰に相談するの?」  
A:「僕ですか?僕は友達もいるけど、悩み、ないっすよ。」  
T:「そうかー。」  
C:「かっこいい!!」  
B:「そしたらDは?」  
D:「自分で!!」  
B:「えー!!調子こいて!!この無印良品、この!!」  
D:「えー!!」  
T:「ちょっと、ちょっと。それさっきいい情報だったんだよー!!」  
B:「そうだよー、お買い得!!ということで。」  
T:「ねえ、私も勉強になりました。今度買ってきたいと思います。授業用に!」  
D:「エッ!!」  
T:「授業用はいつも片山薬局で買うことにしているので・・・。」  
E:「ねえ、誰か買ってきて!!」(笑)  
F:「それ、いいかもね。」  
T:「あはは!うん。それでDは誰に相談するの?」  
D:「友達!Aにも相談するよ!ウフフ。」  
T:「やっぱり親に相談っていうのはないね。」

D：「ってというか、うちの学年さ、わかんないことあったら直接男子に聞くよ。」

B：「ダン？」

D：「男子、男子。」

B：「びっくりした。ダンに直接きいて何解決するのかなって思っちゃった。」

T：「うーん、男子に直接聞くー。例えば最近聞いたことは？どんなことを聞きましたか？」

A：「バギナ!!」

T：「バギナ、わかんないのオー？」

D：「わかんなかったの。」

A：「バギナは聞かれたね、女子に。」

D：「私もわかんなかった。」

T：「(Aに) “ワギナ” な女性の腫れのことだけど、バギナはそれのドイツ語読みかなんかだね。」

B：「わかんなかったの？わかれよ！」

T：「でもいいね。そういう質問はね、直接聞くというのが一番。でもその時、わかった人いた？直接聞いて。」

D：「みんなしゃべってわかったよね。」

T：「そうか、あとは？バギナ以外に。」

C：「スカトロ？」

T：「それ、私がAに聞いた。(笑) わかりません！教えてA！ってね。Aに聞けば大体わかるの？」

A：「うー、わかんない。」

D：「ワッハッハッハ。」

T：「はい、じゃあ、ここ聞きたいんだけどさ、長万部高校の性教育について、感想と要望を出してください。まだ1年生はねー、みんな長万部高校の性教育よくわからないと思うんだけど。アンケートをやって、講演会しか知らないと思うけどね。」

E：「ビデオ見たい！」

C：「毎週1時間。」

F：「もっと作るべきだと思う。」

A：「もっと実践的に。」

C：「目の前でいろいろやってほしいね。」

A：「スカトロ、実践的にさ。」

C：「避妊とかさ。」

T：「保健の時間にビデオ見たり色々やってない？例えば、今の話の実践のことだけど、できるわけがないんだけどさ。」

E：「でもいいんじゃない？」

F：「実践やった方がいいって、絶対。」

E：「ねえF！わからない人いるからね。やるべきだって！」

T：「でも高校生、スカトロ必要かい？」

D・E・F：「違う違う、それじゃない！」

A：「大人も必要ないと思いますよ。」

F：「そんなの、変態だよ。この世にはいらなと思う。」

T：「さっきCが言った避妊の話かな？」

D：「とか、何ていうのかな。」

T：「避妊のビデオは見せると思う。見なかったかい？2年生。」

A：「赤ちゃんが産まれてくるところはみたよ、生で。」

E・F：「うーん。」

A：「出てきた。」

E：「ちょっと待って。どういう感じ？」

A：「いやー、出てきた。」

E：「ウッソー。」

B・D：「ワッハッハ！」

T：「出産シーンね。そういうビデオでもいいの？」

A：「見れないよ。なまら気分悪かった。」

D：「見れない。」

A：「立ち上がろうかと思ったもの。」

T：「今までそういうビデオ見たことなかったの？」

F：「モザイクなし？」

A：「ウン。」

D：「リアルタイム。」

T：「普通性教育のビデオってそうだよー。それいつ見たの？」

A：「昨年だよ。」

T：「昨年なら、1年生の時？」

E：「エー、1年生の時？そしたら、うちら見るじゃん。」

T：「保健の授業？」

D：「違う、違う。HRだよ。全員で見たよ。」

A：「見なかった？ドラマ形式の。」

T：「それ“若人よ”でしょ？“若人よーいのちの愛のメッセージ”。1年の時見せたね。視聴覚室でね。」

C：「見せなさいって!! (笑) 」

T：「先生が最初に話してね、カップルが3組出てくるのね。」

D：「そうそうそう。」

T: 「そのビデオ良かった?」  
A: 「良くない。」  
C: 「でも見たい!」  
E: 「見たい!」  
T: 「さっき良くないってちらっと言ってたけど、あれ、内容がすごくいいなあとってみんなに見せていたんだよね。」  
A: 「面白くなかったよね。」  
D: 「というか、グロいからじゃないの?」  
T: 「いやいや、1年生には見せる。」  
C: 「見たい。」  
T: 「いや、そのビデオ、102分あって2時間かかっちゃうんだよね、それでもいいかな。3つのカップルの中でさっきAが言ったみたいに出産するカップルもあるんだよね。Aは初めて出産シーンを見て良かったということね。」  
A: 「人のルーツを見た!」  
F: 「絶対笑うよ。」  
D: 「私は頭が出た瞬間、目を伏せた!」  
T: 「目を伏せた?見られなかった?」  
D: 「ウン。」  
F: 「ウェー。」  
A: 「聞きましょう、聞きましょう、中学生じゃないんだから。」  
T: 「Bもさ、“若人よ”は1年生の時に見たでしょ?感想は?」  
B: 「あまり覚えてないんだよなー。」  
E: 「マジ、見してー。」  
C: 「近々ね。テスト終わってからねー。」  
F: 「やったー!!」  
T: 「よし、それを見せてあげよう!」  
B: 「見てないんじゃないかな。覚えてないんだよなー。」  
T: 「ロング、これからつくれるかなー。」  
D: 「もうちょっと新しいのがいいんじゃない?」  
A: 「レコードだからさー。」(その映画に出てくる10数年前の制作だから)  
E: 「レコード?」  
A: 「カセットレコーダー。」  
T: 「古くなったので、今年見せないつもりだったんだよね。新しいやつを取り入れようとしたんだよね。」  
D: 「新しいの、ないの?」

A: 「そう、新しいの、いいね。」  
D: 「あれはさ、昔の再現でしょう。今のをさ、再現しているのがいいよね。」  
T: 「今のがなかなかないのさ。」  
F: 「よし!作れ!!」  
T: 「探してるんだけどね。」  
A: 「撮ろう!」  
B: 「撮るか!?!」  
D: 「ホラホラ、性病も入れてさ、検査もそうそう、産婦人科の検査もやるべ。」  
T: 「そうそう、こんな風に他にどんな内容が入ってればいいの?それを国に要望しましょう。」  
A: 「値段だね、値段。」  
D: 「何の値段?」  
A: 「墮ろす値段とか、全部。」  
B: 「一覧表?」  
T: 「産婦人科の先生がAに“君ね、あなたの彼女は何ヶ月で、今例えば8週だから12万円程かかるんだよ”というようなところね。」  
A: 「うん。」  
T: 「あとは?性病?」  
A: 「性病もいいね。」  
D: 「検査、どういう検査か。」  
T: 「テーマ、感染症、どういう検査があるか、その費用、あとは?Bはどんな要望がある?どんな映画を見てみたい?」  
B: 「映画?アイズクライスシャウト、18才禁の。」  
T: 「どんな内容なのか見てみたいね。まあ、学校で見せられる内容のビデオだからね、“若人よ”のビデオは古くなってきたから新しいビデオを作ろうという話だけど。まあ、1年生には“若人よ”は見せるわ。Dとかはないかい?これ実際に文部省や厚生省の方々にもいくと思うから・・・。」  
D: 「さっき言ったことでいいよ。あ、あとあと、なんて言うの、(笑)実際に産んだ人の話とか。」  
T: 「ああ、産んだ人の話?」  
A: 「ウン。」  
C: 「実体験とか?」  
A: 「墮ろしたり、産んだ人の話?」  
D: 「そう。」  
A: 「高校生で子供できて。」  
D: 「だってさ、実際にさ、墮ろした人でもさ、子供産んだ人いるからさ。」

F: 「普通なの？」  
D: 「墮ろした経験ある人でも、子供産んでいる人いるでしょ。」  
A: 「いいこと言ったわ。」  
E: 「あれ、見なかった? F、赤ちゃん墮ろす時のさ、赤ちゃんの頭割ったり切り刻んだりしたやつ。」  
F: 「見た、見た！」  
T: 「いつ見たの？」  
C: 「ヘー。」  
F: 「あれ、いつだっけ。高校に入ってからじゃなかったっけ。」  
C: 「ハイハイハイ。」  
D: 「うちらも見たような気がする。」  
E: 「そういうのってさあー、実際に見ちゃうとかわいそうで、簡単には墮ろせないなあと思うよね。」  
T: 「ウン、今週の金曜日のロングでそれをやろうと思ってるんだよね、中絶の話。」  
E: 「見たい、見たい。」  
A: 「そのビデオ、作ってくれるの？」  
T: 「ウン。」  
A: 「その中に実体験をはなしてくれるの、いいね。」  
T: 「なるほどね。」  
E: 「いっぱい、そういういいのいっぱい作れ! って感じだよ。」  
F: 「ためになる話を聞かせてほしい。」  
E: 「エロビデオは作んなくていいさ！」  
T: 「それはEの持論だもんね。」  
A: 「ガックリ。」 (笑)  
E: 「だからもっとためになるものをさ。」  
A: 「必要です！」  
T: 「ここで“必要だ”って言ってる人いるんですけど。」  
D: 「いません。」  
F: 「だってさ、あんなエロビデオ見てさ、ためになんかない？」  
D: 「だって、モロ演技でしょ。」  
T: 「C、何だって？」  
C: 「自己満足。」  
A: 「ワヤ！」  
B: 「ウワ!!」  
T: 「C、いいこと言うねエ。」  
D: 「まあ、見たい人が見てるだけだけだね。」  
T: 「自己満足って、C、これ、マスターペーショ

ンのためのってことでしょ？」  
B: 「アハハ！」  
A: 「日本語で言えば“自慰行為”？」  
T: 「そうだね、自分を慰める、と書いてね。」  
D・B: 「かっこいい。」  
B: 「えー、難しい言葉使いやがってー、A。」  
A: 「しょうがないんだ、学あるから。」  
F: 「ヤバイからー。」  
B: 「日本語で聞くといやだね、自分で慰めるとかって。」  
T: 「うん、よし、そしたら長万部高校からエロビデオをなくそうというー。」  
A: 「ワイワイ。」  
D: 「そんなこと言ってないよ。(笑)」  
A: 「でも必要ないんでしょう？」  
C: 「いらない。」  
T: 「私もいらない。ハッハッハッ! 誰に向かって言ってるの? 田能村先生にね。」  
A: 「先生、どこまでいったの？」  
T: 「あ、うんと待って。4番目の“長万部高校の性教育について、もっとビデオ見せてほしい”という1年生の要望ね、時間もとって欲しいという。じゃあ、2年生の要望は? アンケートやって、性教育講演会やっているけど。アンケートに基づいた講演会をやっているんだけど。」  
A: 「全校生徒でビデオみたりするのがいいんじゃない。」  
D: 「でもね、あの人が良かったね、講演ね。」  
T: 「誰の講演？」  
D: 「北村先生！」  
T: 「去年の北村先生の講演？」  
B: 「あーあー、おもしろかったよ。」  
E: 「昨年、おもしろかったんでしょ？」  
A: 「受けた！」  
T: 「今年の講演は？」  
D: 「つまんなかった。」  
T: 「すごい評判良かったけど、1年・3年生に。2年生の評判良くなかったんだよね。」  
D: 「だって、別に改めて聞くことじゃなかったんじゃない？」  
T: 「あー、そっかー。1年生と3年生は事例に基づいていてわかりやすかったって。」  
B: 「というか、話が違った方が良かったよね。同